

CYBER WORLD

マザックワールドコミュニケーションマガジン

常識を超える、
未来を探る。

2014
No. 43

Event Notification

JIMTOF 2014

Event Report

IMTS 2014

Customer Report

- 05 東京大学 生産技術研究所
- 07 株式会社 MSTコーポレーション
- 09 LON SHENG INDUSTRIES CO., LTD.
- 11 Jiangyin Wilson Machinery Co.,Ltd.
- 14 MAZAK PEOPLE
- 15 美術館情報

東京大学生産技術研究所：海中ロボット「ブテロア 150」

次代の扉を開く

JIMTOF 2014

10.30(木)▶11.4(火)

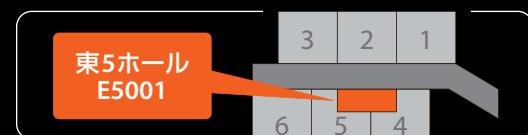
第27回日本国際工作機械見本市 (JIMTOF2014)

会場：東京ビッグサイト (東京国際展示場)

▶ Web で詳しい情報をご覧になれます URL: www.mazak.jp/jimtof2014_1

ヤマザキマザック ブース No.

東5ホール E5001



Event Notification  Japan

第27回日本国際工作機械見本市「JIMTOF 2014」開催

ヤマザキマザックは、10月30日(木)から11月4日(火)まで、東京ビッグサイトで開催される第27回日本国際工作機械見本市「JIMTOF 2014」に出展いたします。

今回の JIMTOF では、新 CNC 装置「MAZATROL SmoothX」搭載機を含む合計 21 台を出展。工程集約機として進化し続ける最新鋭の複合加工機や 5 軸加工機、お客様の部品加工における問題解決のための加工アプリケーションのご紹介など、話題の製品や、新技術をご覧ください。

新 CNC 装置「MAZATROL SmoothX」

今回の見所は 9 年ぶりに一新した新型 CNC 装置「MAZATROL SmoothX」を搭載した 5 軸機や複合加工機計 7 台のお披露目です。操作性の飛躍的な向上や加工時間の大幅な短縮、工場経営のサポートに力を入れたこの装置は 9 月に米国で開かれた IMTS2014 でも大きな話題となりました。ブース内の体験コーナーでは、スマートフォン感覚の直観的操作や 3D モデルによる、まったく新しい対話型プログラム作成を体験することができます。

海外生産拠点からの独自開発機も

今回は国内開発機ばかりでなく、海外の生産拠点で独自に開発・生産した製品を

披露します。中でもシンガポール製のクイックローダ付「QUICK TURN PRIMOS」は、自動 2 輪、自動車などの量産部品加工に対応した自動化システムで、関連業界のお客様から注目されることでしょう。他にもロボット付き立形マシニングセンタ (MC)、6 パレットチェンジャ付き横形 MC など、省人化、自動化を推進するシステム機を展示。切削技術と次世代加工技術をハイブリッド融合した 2 機種の新たなマルチタスキングマシンによる次世代ソリューションも紹介します。

マザックの最先端テクノロジーが一堂に

マザックは、これまでの技術的な蓄積を惜しみなく生かし、ハード、ソフトの両面

からお客様を「次代の扉」の向こう側に誘います。2 年に一度の工作機械のビッグイベント「JIMTOF 2014」の会場で、マザックの最先端のテクノロジーを是非体感してください。

▼ JIMTOF 2014 で出品される MAZATROL SmoothX 搭載機、VORTEX i-800V (左) と INTEGREX e-420H-ST (右)



▶ JIMTOF 2014 で出品される MAZATROL SmoothX





IMTS2014

Event Report

「お客様第一」の姿勢で今後の成長を誓う

IMTS会期中の10日には、展示会場にほど近いミシガン湖畔の「ネイビー・ピア」で謝恩パーティーが開かれました。マザックが重視する「おもてなしの心」で感謝の気持ちを伝える一方、出席者同士の交流を深めていただくための恒例行事。米国内外の25カ国から約1000人のお客様をお招きしました。

山崎智久社長は「今回の出展機にはわが社をパートナーとして選んでくださったお客様の貴重なご意見が生かされています」と挨拶。「マザックはこれからもお客様の声を第一に考え、より高いレベルの技術とサポートの提供を通じて一層の成長を遂げることを誓います」と述べ、喝采を浴びました。

- 01. パーティ会場は多くのディーラーやお客様1000人以上で賑わう
- 02. お客様同士の情報交換が盛んに行なわれる
- 03. スピーチを行なう山崎智久社長
- 04. マザックコーポレーションのブライアン・バブケ社長



01



02



03

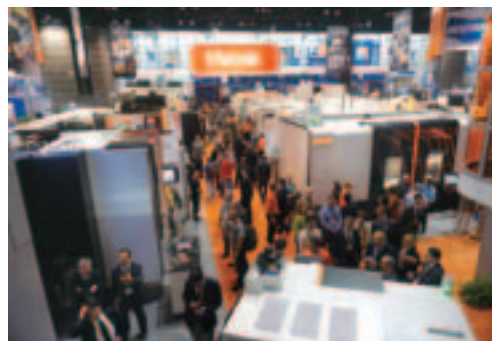


04



40周年を迎えるケンタッキー工場から 独自開発機をお披露目

国際的製造技術展のIMTS2014(International Manufacturing Technology Show／通称、シカゴショー)が9月8～13日の6日間、米国シカゴの複合展示施設マコーミック・プレイスで開かれました。自動車、航空機、エネルギー産業を中心とするユーザーの旺盛な設備投資意欲を背景に過去最高の来場者数を記録。マザックは、切削型工作機械の展示を主力とする南館Aホール・レベル3で現地開発機を多数披露しました。



開幕20分で埋め尽くされたマザックブース

IMTSは欧州のEMO、日本のJIMTOF、中国のCIMTと並ぶ「世界四大工作機械見本市」の一つで、西暦偶数年の秋に開催。30回の区切りとなる今回展には30カ国以上の国や地域から約1500社が出展しました。「技術のEMO」「ビジネスのIMTS」といわれるように、出展各社は積極的な販促活動を展開。

主会場の南館Aホール・レベル3では、複合加工機をはじめ、機械本体とロボットとの組み合わせによる自動化提案などが来場者の興味を引いていました。出展社は実機やワーク、さまざまな演出で多数の来場者を動員。メイン通路に面するマザックブースは開幕20分で満員になるほど連日、来場者で埋め尽くされました。

会場内は、航空宇宙、自動車、機械加工、医療機器、エネルギー・環境分野向けの提案が

目白押し。機械だけでなく、新素材や加工技術、製造工程、計測、品質管理、工場運営などの関連会議も熱気を帯びていました。

マザトロールファンをうならせた新型CNC

マザックは「DISCOVER MORE WITH MAZAK」をテーマに最新の工作機械22台を展示しました。半数近くの10台はケンタッキー(KY)工場で生産する米国独自の機種。地元のニーズを踏まえて開発したもので、さまざまな産業に特化した製品に幅広く対応できるKY工場の40年分の底力を改めて訴える絶好の機会となりました。

出品機の中では、狙い通り、KY製の独自製品が来場者の関心を集め、新機軸を打ち出したQUICK TURN UNIVERSALシリーズの内部を熱心に覗き込む人が目立ちました。

同じくKY製のVERTICAL CENTER

UNIVERSAL 300 5Xはメディカル市場に特化した5軸加工機として出品され、来場者の足を止めさせていました。

今回展のマザックブースで注目されたのは機械ばかりではありません。開幕直前に記者発表された新型CNC装置「MAZATROL SmoothX」は、それを搭載した実機に勝るとも劣らぬ評判を呼び、デモを見た来場者の多くが「クール!」と賞賛。「一新されたグラフィカルユーザインタフェースはスマホ感覚で使いやすいそう。特にワークの3D表示や配色は非常に分かりやすい」と以前からのマザトロールファンをうならせました。





重厚感あるこの工場看板は、VERSATECH V-40で作られたもの



東京大学 生産技術研究所 試作工場

所在地：東京都目黒区駒場4-6-1

職員数：13人

URL: <http://www.iis.u-tokyo.ac.jp/>

▶愛知万博などで展示された「ジャンプするロボット」の足。その原型は、ここで創られた



Customer Report 01

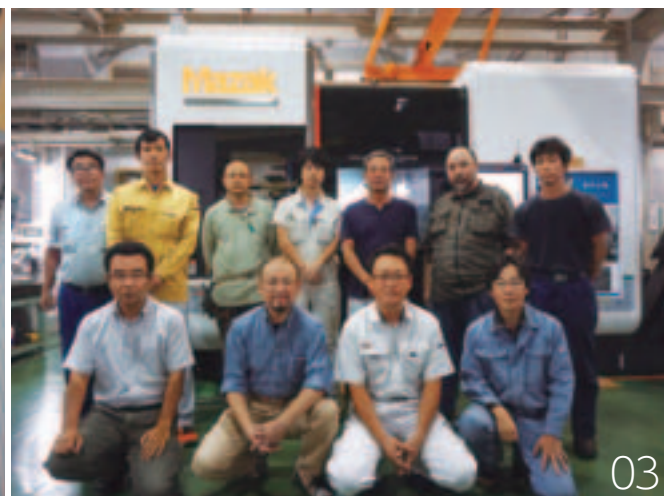
この世にないものを初めてつくる試作工場

Japan 東京大学 生産技術研究所

量子レベルのミクロの世界から、宇宙規模のマクロの世界まで。東京大学生産技術研究所(東大生研)の研究活動領域は広範囲です。第二工学部を母体として1949年に設立された東大生研は5研究部門、1特別研究部門、9研究センター、1実験施設、6連携研究センターを擁する国立大学附置研究所としては最大級の研究施設。それらの求めに応じて、実験装置や機器類などの製作を一手に引き受けているのが試作工場です。



02



03

01. 東京大学の歴史の厚みを感じさせる試作工場外観
02. VERTICAL CENTER SMART 530Cなどマザック機が並ぶ工場
03. 谷田貝悦男副工場長(前列左から2人目)と技術員のみなさん

「つくるのはこの世にないものばかり。同じ仕事は二度と来ません」。谷田貝悦男副工場長は試作工場が受ける注文の特徴をそう語ります。同工場は生研内で活動する200あまりの研究室が必要とする実験装置・機器やテストピースなどの設計、製作、部品・材料の調達などを担当。依頼のほとんどが先進的かつ高度な実験装置であるため、依頼者の研究目的に適した“一品物”の製作に定評があります。量産を前提とする一般的な試作工場との、役割における最も大きな違いでしょう。



「同じ仕事は二度と来ない」と語る谷田貝副工場長

同工場は東大生研の一角を占める、趣きあるレンガ造りの建物を活用。延べ床面積約1300平方メートルで、放電加工を主体とする第一工場、切削加工を主体とする第二工場のほか、ガラス加工技術室、木工加工技術室、精密測定室、共同利用加工技術室などで構成。「依頼品の完成後に判明した細かな問題解決には依頼者との緊密な連携が欠かせません。研究目的に適した製品提供が工場の使命なので、外注加工では得られない成果を

行き届いた安全対策に対する高い評価

切削加工を行う第二工場には、1992年納入のSUPER QUICK TURN 15Mを皮切りに、VARIAXIS 500、VERTICAL CENTER SMART 530C(2012年)、INTEGREX i-200(14年)など、マザック製のCNC旋盤やマシニングセンタ、複合加工機などが整然と並んでいます。その光景はちょっとした町工場をしのぐ雰囲気満ちています。しかし、各研究室の大学院生や企業の研究員らが神秘的な面持ちで機械に向かう様子はやはり、そこが民間企業の生産現場ではなく研究施設の試作工場であることを物語ります。



実験の精度を高めるため、精密な加工を要求される

彼らの作業を手伝う職員の一人は「初めて工作機械に触れる院生でも無理なく扱える操作性の良さが何より」と評しています。

未来の技術と人材を育むゆりかごとして

「この世にないものばかり」を手がける試作工場はこれまで、国立天文台ハワイ観測所すばる望遠鏡や自律航行型の潜水艇(海中ロボット)などをはじめ、先端的な研究の数々を支える関連装置や実験部品を製作。その領域は文字通り、宇宙から深海に及びます。まさに「未来のテクノロジーを育むゆりかご」といえるでしょう。マザック機はそのほとんどの切削加工に携わっています。



マザック機で製作された自律航行型の海中ロボット「ブテロA150」

「マザック機に触れて学んだ経験をぜひ実社会でも役立ててほしいですね」(同)。試作工場は技術面ばかりでなく、次世代の人材を育てるゆりかごにもなっているようです。



▶試作工場では実験装置のほか、アート作品の製作も。アーティスト鈴木康広さんによる美しいフォルムの天秤と、重ねると人型になるクリアカップ



01

COMPANY PROFILE



株式会社 MSTコーポレーション

代表取締役社長：溝口 春機
所在地：奈良県生駒市北田原町1738
資本金：7000万円
従業員数：228人
URL: <http://www.mst-corp.co.jp>

Customer Report 02

Japan 株式会社 MSTコーポレーション

Customer Report 02
「個性と創造」で拓く次世代のものづくり

Japan 株式会社 MSTコーポレーション

日本のツーリングメーカーとして最も長い77年の歴史を誇るMSTコーポレーション。人間の年齢に例えると喜寿の節目です。しかし、その事業戦略は至って若々しく、2014年春には既存工場の隣接地に新工場を建設。長時間の無人稼働に狙いを定めたシステムを積極的に導入し「次世代のものづくり」を目指した取り組みを強めています。海外に目を向けた体制固めにも余念がありません。



02



03



04

01. INTEGREX i-300とロボットアームの自動化システム
02. CNC旋盤が並ぶ工場内観
03. カラフルなグラフィックが描かれた新工場内の壁面
04. 溝口社長(後列中央)を囲む社員のみなさん

「手になじむこと」。主力製品であるツーリングが備えているべき必要条件を溝口春機社長はそう言い切ります。「ツーリングは機械と工具を結ぶためのものですが、必ず人が触ります。ですから、軽くて簡単な仕組みであることが何よりも大切なのです」(溝口社長)。

1937年、福岡県直方市で産業機械や工作機械を製造する「溝口鉄工所」として創業した同社は46年から工作機械用ツーリングの製造を開始。65年に奈良県に移り、91年に現社名に改めました。創業以来、社是の「個性と創造」に基づく独創的な技術を追求。その到達点の一つが同社ブランドの代名詞ともいえる 焼きばめホルダ「スリムライン」です。



スリムラインを使用した加工例

スリムラインは当時、急速に高速化、高精度化するマシニングセンタの性能に対応できることを目的に開発。その際、同社は「お家芸」であるテーパコレット方式の改良ではなく、次世代の高速、高精度を見据えたチャッキング方式に着目しました。「個性と創造」に基づく技術革新の道を選んだのです。

HSK主軸採用で一段と深まった両社の関係

金属の熱膨張と収縮を利用した焼きばめは必ずしも目新しいものではありません。しかし、この技術に関心を寄せていた同社には独自の開発技術やノウハウなどの蓄積がありました。こうして98年に製品化を実現。今日では、精密加工に欠かせない高精度ホルダとして製造現場に広く浸透しています。



高精度・精密加工に多くのマザックマシンが貢献

その生産に深く関わっているのがマザック機の数々です。新工場に据え付けられている12台のほか、最近では、INTEGREX i-200S、同 i-300ST、VERTICAL CENTER NEXUS 535C-IIが納入されました。マザック機の導入は、同社が旗振り役を務めた複合加工機用HSK規格ICTMの企画、検討にマザックが参画したことで一気に加速。ビジネス面での関係は、同社の主力設備であるINTEGREXシリーズにHSK主軸が採用されたことで一段と深まりました。INTEGREXシリーズは、加工時間の短縮と増産に貢献。ロボットとの組み合わせによる長時間の無人運転も可能にしました。

無人化工場の稼働で期待されるマザック機

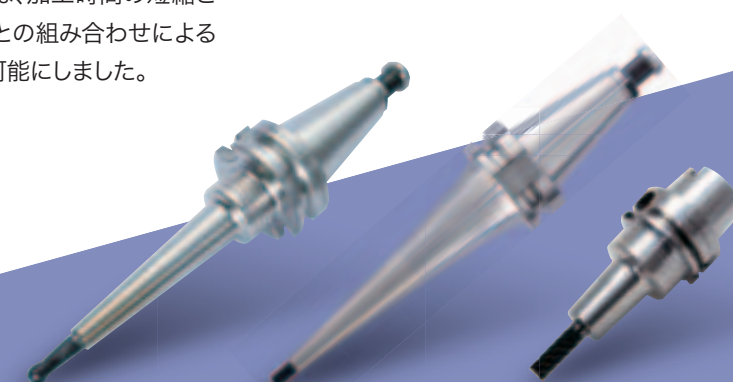
「コストダウン、短納期対応、環境整備による次世代のものづくり」を目指す新工場では①独自の自動搬送システムによる無人化工場の運営②生産方式の見直し(品種別→工程別)によるマテハンの効率化③工場内の環境改善による品質向上を推進。無人化工場の主要設備では工程集約に役立つマザックの複合加工機やシステムに大きな期待が寄せられています。



前後2台のINTEGREXにそれぞれロボットアームが搭載された自動化システム

新工場の本格稼働に伴う生産能力の増大で同社は海外販売比率を現状の35%から50%に引き上げる計画。海外在庫センター「J-compo」を米国、ドイツ、香港、シンガポールに設けています。海外市場重視の姿勢はマザックの経営戦略にも通じるもの。複合加工機がつかないだ絆の強さはHSKの特質である2面拘束しながらに堅牢です。

▶焼きばめホルダ「スリムラインシリーズ」





01

Customer Report 03

技術力生かした医療部品の製造で飛躍

 Taiwan LON SHENG INDUSTRIES CO., LTD.

LON SHENG INDUSTRIES CO., LTD. (瓏昇實業股份有限公司 - 林栢根董事長) は家庭用ミシンの部品加工を主力事業として1979年に台湾中央部の台中市で創業。台湾全土へのアクセスのしやすさと高い技術力が評価され、順調に業績を伸ばしてきました。ところが、2008年のリーマンショックや繊維機械業界の低迷は同社に事業の見直しを迫ります。林董事長ら経営幹部のとった打開策は「異業種の部品加工への挑戦」でした。



02



03

- 01. 磨き抜かれたチタン製の骨接合用のプレートはまるでジュエリーのように美しい
- 02. VARIAXIS j-500、VERTICAL CENTER SMART シリーズが計16台整然と並ぶ工場内
- 03. 林栢根 董事長(左)と林柏樹 總經理(右)

COMPANY PROFILE



LON SHENG INDUSTRIES CO., LTD.
(瓏昇實業股份有限公司)

董事長：林 栢根
所在地：No.15 Rencheng Rd., Dali Dist.,
Taichung City 412, Taiwan R.O.C.

 Taiwan LON SHENG INDUSTRIES CO., LTD.

Customer Report 03

マザック機の導入で生産効率が20%改善

プレートの加工に軸足を置いた同社は、ミシンの部品加工で蓄えた技術力を生かして試作研究を重ねた末、ついに量産化の認可を受けることに成功しました。それを陰で支えたのがマザックの工作機械です。



マザック機による生産ライン

数ある工作機械メーカーからマザックが選ばれたのは「精度、アフターサービス、コストパフォーマンスの良さ」(同社)が評価されたからでした。例えば、プレートは難削材であるチタン製のため、加工時間が非常にかります。刃具の消耗を抑えるために加工送り速度を落とせば加工時間が延びてしまいます。「その点、機械剛性や加工速度を落とさず、高水準の加工面を得られるマザック機はチタン製品の量産加工に最適です」(同)。

2012年に導入したVARIAXIS 500-5X IIを始め、VARIAXIS j-500 (5台)、VERTICAL CENTER

SMARTシリーズ(10台)による計16台のラインを構築。「加工剛性による工具寿命の向上やATC、軸移動などの速度向上による非切削時間の短縮で生産効率は20%改善されました」(同)。



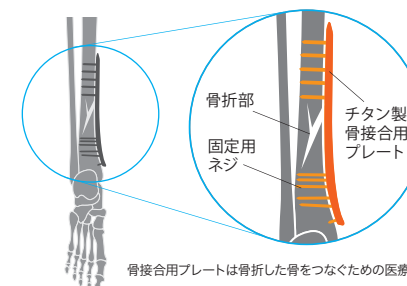
複数のマザック機をネットワークで管理

プレートの需要増にらみ、新工場建設へ

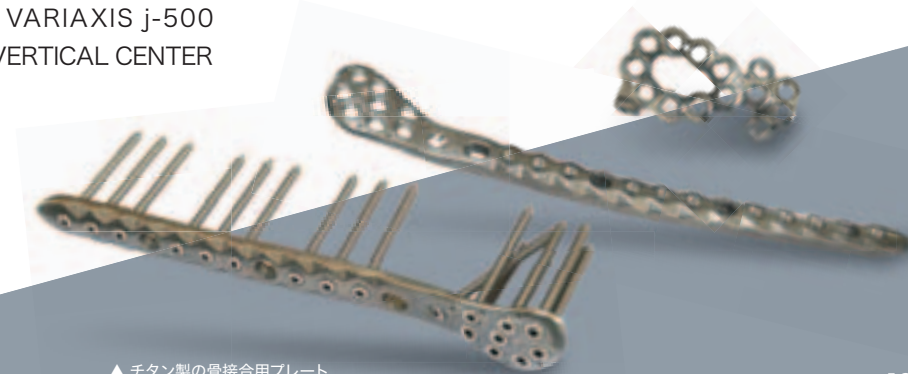
台湾では今後、プレートの需要が確実に増えるとみられています。こうした動きに応えるため、同社は新工場の建設を計画。主力のラインでは複数台のマザック機によるプレート加工専用ラインの構築を検討しています。

将来は海外からの需要増にも照準を合わせて増産体制を整える一方、INTEGREXシリーズなどの複合加工機を導入し、プレート以外の分野の製品開発や生産を進める予定です。

「医療部品は今後の重点分野であるだけに、マザックとはより親密な関係を深めたい」(同)。両者のパートナーシップはプレートの材料であるチタン以上に固いようです。



骨接合プレートは骨折した骨をつなぐための医療用部品



▲ チタン製の骨接合用プレート



01

Customer Report 04

マザック機の導入で生まれた事業の好循環

★ China Jiangyin Wilson Machinery Co.,Ltd.

12年間で300万元から1億元へ。中国江蘇省江陰市に本拠を置く精密金属加工業、Jiangyin Wilson Machinery Co.,Ltd(徐惠民総経理)の年間生産額は、干支が一巡りする間に33倍強の急成長を遂げました。静かな水面に投げられた石がつくる波紋のように事業の輪を広げたのです。投げられた石の一つとして、同社の経営拡大を助ける役目を継続的に果たしてきたのがマザック製の機械やシステムでした。



02



03

01. 産業用ロボット向けのロータリーベース。工場内にズラリと並び
02. 工場で製作されたコンプレッサーハウジング
03. HORIZONTAL CENTER NEXUS 8800 IIが据え付けられた工場内

COMPANY PROFILE



HEX 江陰市惠信機械有限公司

Jiangyin Wilson Machinery Co.,Ltd
(惠尔信机械有限公司)

社長 : 徐惠民
所在地 : No.6, Xiejing Rd,Chengjiang Town, Jiangyin City
従業員 : 160人
URL: <http://www.wilsonchina.com>

徐総経理は自社の成長の鍵が最新加工設備のもたらし好循環にあると言い切ります。



HCN μ8800が多品種少量生産を可能に

7年間で9台のマザック機を相次ぎ導入

徐総経理の言葉を裏付けるように最初の導入機での成功を受けて同社はマザック機を相次ぎ導入。その数は7年間で9台に及び、現地では「工作機械の動向を伝えるショールームとして機能しています」(徐総経理)。

現在、加工エリアには、INTEGREx e-1550V/10 II、FJV 35/60 II、FJV 60/80 II、HORIZONTAL CENTER NEXUS 8800 II(2台)、HCN μ8800(2台)、FH-10800、PALETECH MANUFACTURING CELL 8800など、マザック製の複合加工機や門形マシニングセンタ(MC)、横形MC、FMSなどが据え付けられています。



HORIZONTAL CENTER NEXUS 8800 IIと徐総経理

Customer Report 04

★ China Jiangyin Wilson Machinery Co.,Ltd.

▶鉄道車両に用いられるディスクブレーキ。緻密な加工が美しい

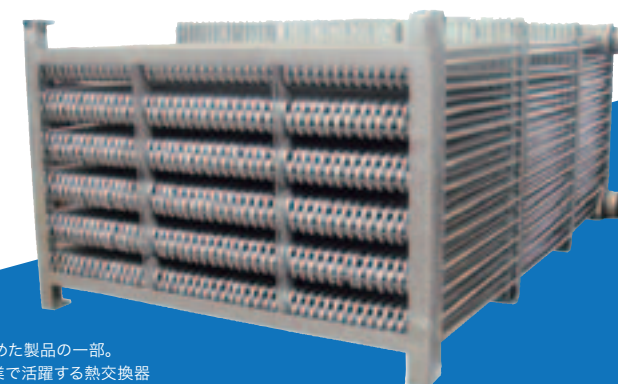
「最初に導入した5軸加工機は、われわれが求める性能と高いコストパフォーマンスを十分に満たしてくれました。このときの選択が間違っていなかったことは、加工能率を大幅に向上させる一方で、人件費を抑えるというわれわれの望んだ結果を見事に実現してくれたことで明らかです」(同)。

飛躍的な成長を支えた自動化や知能化

とりわけ、徐総経理が感嘆の声をあげるのはHCN μ8800と24パレットタイプのFMSを導入後、格段に高まった多品種少量生産への対応力でした。

「未来を見据えたマーケティングに沿って新たなビジネスチャンスを獲得することは優秀な生産企業の目標です。当社が飛躍的な成長を遂げることができたのは、マザック機の誇る高度な自動化や知能化によるものです」(同)。

同社の受注状況は「依然として好調で増産体制を整えています。それだけに今後の一層の事業展開が楽しみ」(同)。徐総経理が自社を舞台にして陣頭指揮を執る「好循環」を巡る壮大な実証試験はまだまだ続きそうです。



▶同社技術の粋を集めた製品の一部。写真はさまざまな産業で活躍する熱交換器



MAZAK PEOPLE

Yamazaki Mazak Italia S.r.l. Sales Admin. Manager

 **炭田 拓也** さん Mr. Takuya Sumita

「イタリア市場の第一人者」になりたい

PROFILE >> 炭田 拓也さん

2008年ヤマザキマザック入社。海外営業部門で中国市場を担当。2014年5月から現職。趣味は本場のジェラート屋巡り。休日は買い物や小旅行で過ごす。1985年静岡県生まれ。

製造から販売、アフターフォローまで、国内外にたくさんの関連拠点を展開するヤマザキマザック。MAZAK PEOPLEは、グループ各社の第一線で活躍する人々を取り上げます。今回登場するのは入社以来海外担当に携わり、20年以上の歴史をもつイタリアの現地法人、ヤマザキマザックイタリアに勤める炭田拓也さんです。

炭田さんのMazakな一日



>> 出社

自宅のあるミラノ市内から会社までは車で約30分の道のり。左ハンドルにも慣れました。



>> 始業

1日はメールチェックから。時差を考え、午前中は日本の生産部とのやり取りに集中。



>> ランチ

同僚と近くのカフェでランチ。地元ならではのピザはボリューム満点でおいしい！



>> ミーティング

午後は社内会議。各プロジェクトの進捗状況の確認やさまざまな打ち合わせをします。



>> セミナー

現地の代理店と合同でセミナーを開催。こうしたイベントのフォローも大事な仕事です。



>> 帰社

時々、ジェラート屋に寄り道。行列が30メートルに及ぶこともあります。味は抜群！

—— 現在の仕事内容は？

営業管理業務をはじめ、商談時のお客様訪問、機械仕様の取りまとめ、納期交渉を含む現地営業スタッフのサポート、各種イベントや展示会の準備など仕事の幅は広いですね。2013年に社内の海外研修制度で経験した英国とイタリアでの業務経験が生きていると思います。

—— イタリアはいま、どのような産業が盛り上がっていますか。よく使われている工作機械などを教えてください。

自動車関連のお客様からの引き合いが目立ちます。しかし、各種産業機械、油圧機器、一般機器、農業機械、エネルギーなど、産業の裾野が広いのがイタリアの特徴です。自動化への関心が高いため、横形マシニングセンタ＋FMSやロボットの活用も積極的。INTEGREXシリーズなど複合加工機もよく使われています。

—— 現地で苦労したことは何ですか。

イタリア人の考え方や仕事の進め方に戸惑いました。慎重に検討し、確実な裏付けを取るのではなく、まず取り掛かる。不確定要素があっても立ち止まらず、仕事を進めながら修正していくという印象です。ですから、彼らのやり方を尊重しつつ、要所要所ではブレーキ役となるように努めています。



流暢なイタリア語でお客様と話す炭田さん

—— 仕事のやりがいを感じる瞬間は？

駐在員として常に心がけているのは「現地スタッフが困った時の切り札となること」です。しかし、イタリア側の要望を正確に日本に伝え、迅速な回答を得て円滑に商談を進めるのはたやすいことではありません。案件の取りまとめを任されることもあります。それだけに、自分が両国間のインターフェイス役を果たして現地スタッフの力になり、受注につながった時にはやりがいを感じますね。

—— 今後チャレンジしたいことや達成したい目標は？

赴任早々に関わった大型案件では、納期面で暗礁に乗り上げていました。しかし、お客様に足を運んで商談の背景や重要度を理解し、最終的に先方の要望に応えることができました。こうした経験を重ねてイタリア市場への理解を深め、駐在員として同市場の第一人者となるように努めたいですね。その上で、現地スタッフと力合わせて、お客様の求めに一つひとつ応えていけたらと思います。

走る前に考えるか、走りながら考えるか。前者が日本の多数派なら、後者は典型的なイタリア流といえるでしょう。それは最初に炭田さんを悩ませたある種のカルチャーショックだったようです。イタリアという土地柄で日本の流儀をどこまで通すのか。「第一人者」を目指す炭田さんの手腕が問われそうです。

News & Topics

グローバルウェブサイト 公開！



みなさんもうご覧になりましたか？

8月から、ヤマザキマザックのウェブサイトが新しくなりました！各国のデザインを統一し、世界中のお客様に見て頂きやすいサイトとしてリニューアル。新製品やイベント情報など、ニュースを随時更新しています。PC、スマホなどからいつでもアクセスしてください！
<https://www.mazak.jp/>



今号の表紙



東京大学生産技術研究所の食堂裏庭に展示されている、実物の海中ロボット「プテロア150」。海中調査には、これまで潜水艇などの有人調査や、長いケーブルを取り付けた有索無人潜水機調査の方法がとられていましたが、その調査範囲を広げるべく、1989年、無人ロボット「プテロア150」は開発されました。このロボットの製作にも、マザック機が活躍。世界の研究や開発に、今日もマザックは貢献しています。

ヤマザキマザック美術館は、美術鑑賞を通して豊かな地域社会の創造、ひいては日本、世界の美と文化に貢献すべく、名古屋の中心地 葵町に、2010 年 4 月に開館致しました。

当館は、創立者で初代館長の山崎照幸が蒐集した 18 世紀から 20 世紀にわたるフランス美術 300 年の流れを一望する絵画作品及びアール・ヌーヴォーのガラスや家具等、ヤマザキマザックのコレクションを所蔵・公開しております。

みなさまのご来館をお待ちしております。



フランソワ・ブーシェ(1703-1770)「恋文」1745 年 油彩・キャンバス

THE YAMAZAKI MAZAK MUSEUM OF ART
所蔵作品ご紹介

フランソワ・ブーシェ「恋文」

水辺でラブレターを片手に微笑む少女。傍らには白い子羊。繁みの向こうにも羊の群れが見えることから、少女が羊飼いであることが読み取れます。傍らに仕える犬は牧羊犬なのでしょう。繁みの奥には、口元人差し指を添えながら覗きこむ少年の姿が見えることから、この恋文がおそらく相愛の相手からの秘められたものであることがわかります。

ピンクがかかった水面と空は初々しい少女の肌を美しく照らしているようです。草むらの赤い木の実が彩りを添えています。

この絵が描かれた 1745 年頃、画家ブーシェの画業は高みに達し、質の高い作品が次々と生み出されました。ルイ 15 世の信頼厚き愛寵ボンパドール侯爵夫人がブーシェに描かせたとされる本作は、夫人が所有するベルヴュー城を飾っていたと伝えられています。



「美」とは、「羊」と「大」とが組み合わされた漢字で、古来、幸せをもたらすものに使われてきました。人々を災いから守るための神様への供物として、大きく立派な羊を捧げたことから、人間の最も崇高な行いこそが「美」とされてきました。

ひつじ年を迎える 2015 年の新春に合わせてヤマザキマザック美術館では、井上信太 + 前田真二郎による「羊飼プロジェクト」の軌跡をご紹介します。「羊」が描かれたパネルを森や都市などに放牧(設置)し、写真や映像に収めて公開するこの美術作品は、日本国内にとどまらず、ドイツ、ベルギー、中華人民共和国など世界各地で行われてきました。

本展では、名古屋の観光名所や味のある路地裏など、さまざまな場所での放牧記録と合わせて、世界中で展開されてきた羊飼プロジェクトの軌跡を公開します。

国境を越えた羊と人間の触合いは、新たな美を発見させてくれるでしょう。

予告
ヤマザキマザック美術館展覧会情報

名古屋 ひつじ物語

羊飼プロジェクトの軌跡

井上 信太 + 前田 真二郎
INOUE SHINTA + MAEDA SHINJIRO

2014 年 2015 年
11.14 | 金 | - 2.15 | 日 |

- ◎ 開館時間：平日 / 10:00 ~ 17:30
土日祝 / 10:00 ~ 17:00 (入館は閉館の 30 分前まで)
- ◎ 休館日：月曜日 (月曜日が祝日の場合は翌平日休館)
- ◎ 入館料：一般 1000 円 [10 名様以上 800 円]、18 歳未満 500 円
小学生未満無料 音声ガイド無料サービス